

健康福祉常任委員会会議記録（概要）

令和6年6月10日（月）

開 会（午前9時0分）

【議 事】

○請願第1号「加齢性難聴問題に対する所沢市の施策を充実してください」

川辺委員長

初めに、本日は参考人として、八木多美代さんに御出席をいただいております。

この際、参考人の方に一言御挨拶を申し上げます。

本日は、お忙しい中にもかかわらず、本委員会のために御出席いただき、誠にありがとうございます。委員会を代表して心からお礼を申し上げますとともに、忌憚のない御意見をお述べくださるようお願いいたします。早速ですが、議事の順序等について申し上げます。

初めに、八木参考人に、5分程度で御意見を述べていただき、その後、委員の質疑にお答えいただくようお願いいたします。

【参考人の意見陳述】

八木参考人

全日本年金者組合所沢支部の八木多美代と申します。いつもお世話になっております。本日はこのような陳述の機会を与えていただき、本当にありがとうございます。また、令和5年12月定例会において、加齢性難聴に関わる請願を趣旨採択していただいたこと、そして、担当者の

皆様が取組を行おうと努力をしてくださっていることに、心から敬意を表し、感謝を申し上げます。今回、私たちは再度請願を提出させていただきました。埼玉県内において、加齢性難聴問題に対する対応が急速に進んでいる状況があるからです。現時点で、補聴器購入費助成制度の実施自治体は、私たちが把握するだけでも県内で16市町となっています。そして、実施された自治体の多くは、所得制限を設けない、高齢者全体の課題として施策が始められています。また、昨年12月の県議会においては、党派を超えて、加齢性難聴対策や補聴器購入費助成制度の大切さが認識され、国に対する意見書が採択されました。このような県内における急速な認識や対策の広がりに対して、本年2月に示された、福祉部の現状認識や対策は不十分なものであると、私たちは感じています。所沢市は「健幸長寿のまち」を高く掲げて、行政施策を進めようとしています。難聴になることで、外出や人とのつながりが奪われていく現状を、そのまま放置することは適切ではありません。市の重要施策として、所沢市が先頭に立って、取り組むべき課題なのではないでしょうか。私たちは高齢者も含め、全ての市民が健康で、生き生きと社会参加できる所沢市であってほしいものだと考えています。難聴があると、音の刺激や脳に伝えられる情報量が少なくなり、脳の萎縮や神経細胞が衰えていくため、認知症の発症につながると言われております。近年は、難聴が脳機能と関連することに着目し、脳の活性化を促すために、早くから補聴器を使うことも推奨されています。加齢性難聴は、医療保険や

介護保険の費用にも影響を及ぼしているのではないのでしょうか。所沢市として、補聴器購入費助成制度をどのように始めることが可能かとの視点から検討されることを求めます。また、かつては年をとったから仕方がないと思われていた聞こえの課題が、高齢者の豊かな生活にとって、重要な問題であることをぜひ、市として広く市民に啓蒙していただきたいと考えております。なお、前回の請願で多くの疑義が寄せられた、後期高齢者医療制度における聴力検査の課題については、令和5年12月定例会でのご意見も踏まえて、今回は削除させていただきました。請願をご採択いただきますことを心から願って、意見陳述とさせていただきます。

【参考人意見陳述終了】

【参考人への質疑】

中井委員

一点確認だが、所沢市で補聴器購入費助成制度をどのように始めることが可能かとの視点から検討されることを求めるということは、令和5年12月定例会で審査した請願内容と少し違うのかなと思っているが、いつからとか、どれくらいの補助でとか、そういうことも含めて、全て所沢市でできるところから始めてほしいという趣旨で、今回請願されたということで大丈夫か。

八木参考人

そのようでいいと思います。

赤川委員

先ほどの意見陳述の中で、「本年2月に示された、福祉部の現状認識や対策は不十分なものであると、私たちは感じています。」ということだったが、これはどういうことを指しているのか確認させてほしい。

八木参考人

予算の問題であるとか、年齢とかですね。その辺を指しております。

赤川委員

それを何か公の場で、例えば議会の中で語られたとか、何かそういうような発言が福祉部からあったのか。

川辺委員長

これに関しては、令和6年3月定例会の諸報告において、請願の処理経過及び結果で報告が上がってきております。

【参考人への質疑終結】

休 憩 （午前9時10分）

※参考人退室

再 開 （午前9時11分）

【質 疑】

中井議員

先ほどの質疑の中で出てきた諸報告の請願の処理経過及び結果のことで聞きたい。今後、難聴や補聴器に関するアンケートを実施するとい

う文言があるが、これはいつどのような内容のアンケートを実施する予定なのか。

溝井高齢者支援課長 ご質問のアンケートでございますが、従前から行っている高齢者向けのアンケートがございまして、その中の質問の一つに、聞こえに関するアンケートを追加しようと、今検討しているところです。質問の内容につきましても、現在、補聴器を使われているかどうか、そういった質問から、実際の補聴器の需要や難聴の割合など、そういったものが分かるように工夫して、質問を考えていきたいと思っております。

中井委員 従前から行われているアンケートということだが、次回のアンケートを行うのはいつか。

溝井高齢者支援課長 アンケート自体は毎年行っておりまして、今準備しているところですが、大体7月に送付し、8月ぐらいまでに集計して、その後、年度末までには、回答をまとめる形になっております。

中井委員 では、結果が出て、検討に入るということは、来年度の予算に入れるというのはなかなか難しいスケジュールになってくるのか。

溝井高齢者支援課長 予算に関しては、確かに今のスケジュールだとそういう形になるかも

援課長 しれませんが、そもそも実際に、その補助をするかどうかというところから検討に入りますので、来年度、約束できるような状況ではございません。

中井委員 その検討に入った際は、一般的なスケジュールで構わないが、どれくらいの期間で検討し、実施するまでにどれくらいかかるのか。

溝井高齢者支 仮の話はここでは控えさせていただきたいと思います。

援課長

山口委員 今、他市の動向調査の進捗具合はどれくらいか。

溝井高齢者支 他市の動向調査につきましては、把握している時点で、先ほど16市
援課長 町村というご発言がありましたが、こちらで調査した内容だと埼玉県内14市町で実施されているようです。

中井委員 他の自治体のことを聞いて、全日本年金者組合所沢支部の方からいただいた資料を元にちょっと確認して、昨年からはじめた鴻巣市だが、一番初めに65歳以上の方には介護保険課で200万円の予算をつけて、それよりもっと若い方については、障害福祉課で40万円の予算をつけて補助事業を開始したが、応募がすごく殺到してしまって、結局のところ、

補正予算をつけて、486万円になったという話をいただいた。しかし、その1年間の実績を見て、今年度、介護保険課では予算を400万円つけた。障害福祉課は40万円で間に合ったので、そのままだったという話だったが、やっぱり最初は今までやっていなかったことだから、すごく申込みが増えるけれども、その後、減ってくるというものだが、この人口規模で考えると、所沢市だと3倍あるので、1,200万円くらいになってしまう。今現在、所沢市でもし予算をつけるとどれくらいかかるのか。おそらく、これを実施することを考えた時に、まず初めに予算のことを考えると思う。それで、できるかできないかを考えていると思って質問するが、どれくらいの予算の積算を予想しているのか。

溝井高齢者支援課長

他市の状況ですと、大体2万円というところが多いのですが、大体70歳以上の方の半数が難聴があるというふうに数字も前回いただいていたと思いますので、70歳以上が所沢市では大体7万人、その半数が3万8,000人、それに2万円をかけると、大体7億6,000万円というざっくりとした積算はしています。しかし、実際にはこれほどの規模の予算は当然難しいですし、他市をみても、そのまま所得制限なしで補助しているところはほぼないと考えておりますので、実際に精査すれば、このような金額にはならないとは思いますが、要望がどんどんあがってくれば、こういった数字にもなりかねないというような懸念は持っております。

中井委員

全員が一気に申し込むとは思えないので、7億6,000万円には必ずしもならないということだとは思いますが、他の考え方として、嵐山町では対象者が65歳以上、所得制限の設定なし、1人1回限り、上限2万円までということだが、30万円しか予算をつけてないという形であるけど、それでも始めているという状況がある。このことについての見解を聞きたい。

溝井高齢者支援課長

嵐山町の数字は確認をさせていただいたのですが、ちょっとよく分からないというのが正直なところです。高齢化率でいうと、多分高いとは思いますが、実際に需要がないという結論なのか、実際に調べたところ、やめた市もございまして、需要がよく分からないというのが正直なところです。

中井委員

需要があるかないかを、先ほどのアンケートでまず受けるということだと思うが、そこで需要がたくさんあったとして、まずちょっとでも予算をつけて始める。だから、たくさんあった場合に7億円ほどかかってしまうから、ちょっと無理でしょうということではなくて、早いもの順とかになってしまうかもしれないけど、それでも少しの予算を取って始めるという考え方はあるのか。

溝井高齢者支

7億円という数字がちょっとインパクトがありすぎて、1人歩きして

援課長

いるかもしれないですが、実際には、軽度・中等度というレベルがありますので、他市をみますと、40デシベル以上の中等度に限定されていたりとか、1人1回限りとか、2万円とか、そういう数字になってくるのですが、実際に需要をみて、予算がないから、ここまでというふうに言えるのかどうかというと、福祉サービスですので、それはなかなか言えないのではないかと考えております。なので、実際にこれだけ、高齢者の方が増えていく中で、福祉サービスを求められるところも増えていきますので、そういったものを見極めて、補助については考えてまいりたいと考えております。

中井委員

ということは、全員には回らないかもしれないけれども、予算はこれだけというようなやり方は考えていないということか。

溝井高齢者支

援課長

先ほども委員からご指摘あったとおり、おそらく他市も補正予算を組んで、対応しているということですので、その予算はここでおしまいというふうには多分、実際にはならないのではないかと考えております。

赤川委員

令和5年12月定例会に、同じ件名で請願が出てきて、趣旨採択された。理由が他市の状況を把握する必要があるというような内容で、先ほどこちよっとあったが、他市の調査をされていると思うが、他市の状況をみて、アンケートもやっているということだが、ある程度一定の時期に

何らかの結論を出すというか、そういう考えで今、動いているのかどうか。それに対して今、どの程度のところに来ているのか。それについて聞きたい。

溝井高齢者支援課長 現時点では結論を持ってはいませんが、アンケートの結果や他市の動向、国の動向も注視しながら研究してまいりたいと現在は考えております。

赤川委員 今はそういう状況だと思うが、それをどのくらいの時期に最終的に判断して、結局は予算編成につながっていくという話だと思うが、今はその辺の段階で、他市も実際に実践していて、近隣他市でいうと、越谷市とかも3万円だったか上限でやっているところもあるから、やればできないこともないのかなということだと思うが、やはり大きな市政全般の予算もあるから、そういう意味で、一定の時に結論を出す必要があると思う。それについて、どういうふうに考えているのかを、部長に答弁していただきたい。

前田福祉部長 先ほどから申し上げておりますけれども、まずはどういう状況かということ把握する調査を、市として行っておりませんので、まずそれで全体をみていくということが、最初にできることだと思います。あとは予算を少しでもつけて先着順というのは、やはり少し違うかなというふ

うに思っておりますので、高齢者政策全体の中で、優先度合いとか、そうしたことも全て含めて、あとは市の財政的なものも鑑みる中で、どのように位置づけていくかということは、検討していくことになろうかというふうに考えております。

赤川委員 前向きには考えているが、今ちょうど調査研究の段階ということで理解した。

中井委員 先ほど国のほうも、どうなっていくか注視していくというような答弁があったが、今は国の検討会とかはどういう状況になっているのか。埼玉県議会も国に要望を出していたりしており、全国的にも広がっている助成制度だと思うので、国のほうはどういう状況なのか教えてほしい。

溝井高齢者支援課長 国の動向に関しましては、公表されているものを確認しますと、補聴器の補助事業というものはあまりなくて、どちらかというところ、聞こえの支援、聞こえの早期予防、そういった形で施策を進めているような文言等は見受けられます。なので今後、そういった加齢性難聴だけではなくて、障害に至らない難聴に関しての施策というのは、国のほうでも検討しているようでございます。

中井委員 今、聞こえ問題の話があったけども、今回の要望にも所沢市として、

聞こえの対応も入っており、市民への啓蒙や耳鼻科専門医との連携などという形であったかと思うが、こちらについてはどれくらい話合いが進んでいるのか。

溝井高齢者支援課長

聞こえの支援に関しては、既に行われている事業がいくつかございますので、そちらのほうは障害者手帳を受けた方への対応とか、公共施設のヒアリンググループの設置とか、あと介護予防としては、聞こえをテーマとした介護予防教室の開催などを行っております。

中井委員

そうすると広く、加齢性難聴についての啓蒙と言ったら何かちょっとあれだけど、こういうもので早めに対応することだから、年を取ったから仕方がないということじゃなくて、早めに対応すれば、聞こえが維持できて、活動的になれるし、認知症の予防にもなりますよっていうような、そういう広く知らせている広報とか、何かそういう活動はしているのか。

溝井高齢者支援課長

先ほど申しました介護予防教室などでそういった話はしているかと思いますが、市としてメイン事業として、そういったことは現在やっていないところでございます。ただ、先ほども話したとおり、国もそういった部分は重要だと考えているようですので、国の動向を注視しながら、市もそれに遅れないように、施策について十分検討して進めてまい

	りたいと考えております。
入沢委員	県内の14の自治体で、このような補助制度を行っているとのことだが、その中で人口規模が大きい自治体を教えてほしい。
溝井高齢者支援課長	大きい市ですと越谷市、川口市などがございます。
入沢委員	越谷市と川口市では、補助対象に非課税世帯などの要件はあるのか。
溝井高齢者支援課長	越谷市、川口市いずれも非課税世帯という所得制限がございます。
入沢委員	補助額はいくらか。
溝井高齢者支援課長	手持ち資料の範囲でのお答えしますが、川口市は補助上限額が2万円、越谷市は補助上限額が3万円となっています。ただ、細かい条件等があるかもしれませんので、現時点でお答えできるのはこの範囲となります。
入沢委員	非課税世帯に限って補助しているということで、何世帯くらいを対象

	に補助事業を行っているのか。
溝井高齢者支援課長	予算額が200万円ですので、補助の上限額が2万円だと、100人くらいが対象であると考えます。追加で条件があるかは分かりませんが、予算規模を補助の上限額で割り返せば、対象者数が出ると思います。
入沢委員	越谷市や川口市ではいつから補助が開始されたのか。
溝井高齢者支援課長	そこまで細かい内容までは把握しておりません。
入沢委員	東京都の状況は把握しているか。
溝井高齢者支援課長	東京都の場合は分かる範囲でお答えしますと、東京都が半分、残りを市区町村が負担するという形ですが、上限はないところもあるみたいですが、概ね2万円と聞いております。
入沢委員	東京都で補助を行っている市区町村はどのくらいあるのか。また、非課税世帯に限るなどの所得制限の条件はあるか。
溝井高齢者支援課長	手元に資料がないので、この場ではお答えできません。

援課長

山口委員

前回の請願審査以降、聞こえに対しての市民からの声は出ているか。

溝井高齢者支

請願審査以降に関しましては、そういった要望等は直接は聞いていな

援課長

いですが、助成制度があるかどうかといった質問については、年に数回あるかないか程度の認識です。

赤川委員

前回の請願審査でも聞いたが、保険適用について、そのときは情報がないということだった。後期高齢者医療広域連合や国の動向も含めて、保険適用について新たな情報等はあるか。

溝井高齢者支

そういった情報は認識しておりません。

援課長

【質疑終結】

休 憩（午前9時37分）

（休憩中に協議会を開催）

再 開（午前10時2分）

【意見】

入沢委員

請願第1号「加齢性難聴問題に対する所沢市の施策を充実してください」自由民主党・維新・参政・無所属の会を代表いたしまして、意見を申し上げます。難聴が人の社会とのコミュニケーションを阻害し、社会的な孤立を生む要因となることが懸念され、耳の聞こえを保つことは非常に大事なことであります。高齢化も進み、このような難聴への懸念がある中、令和5年12月定例会におきまして、同様の請願に対して趣旨採択の判断を下したわけでありまして、本日の質疑におきまして、今後、執行部のほうで難聴や補聴器に関するアンケートを実施するとともに、県内他市の動向や、高齢者に対する補聴器の必要性などを調査していくことも分かりましたので、もう少し執行部の様子を見守っていく必要があると思いました。そうは言っても、今後の執行部の前向きな検討を期待いたしまして、前回と同様の趣旨採択を主張します。

【意見終結】

【採決】

川辺委員長

請願第1号については、全会一致、趣旨採択すべきものと決する。

休憩（午前10時5分）

（休憩中に協議会を開催）

再開（午前10時16分）

川辺委員長

○閉会中の継続審査申出の件について（特定事件）

閉会中の継続審査申出の件については、別紙の内容で申出を行うことと決定した。

散 会 （午前10時17分）

特定事件 常任委員会閉会中継続審査申出表

令和6年第2回（6月）定例会

健康福祉常任委員会

- 1 地域福祉について
- 2 障害者福祉について
- 3 高齢者福祉について
- 4 社会保障について
（低所得者支援・介護保険・国民健康保険・高齢者医療）
- 5 子ども支援について
- 6 青少年育成について
- 7 保健・医療について